
文 芸 展 & 茶 席

俳句・華道・短歌・川柳・盤景・美術

令和8年11月6日(金)～10日(火)

午前10:00～午後5:00(10日は午後3:00まで)

テクノプラザかつしか・展示ホール

区民の方々の作品を展示しています。

作品をご覧になり、憩いのひとときをおすごしください。

茶 席 7日(土)～8日(日) 午前10:00～午後4:00
(最終席入 午後3:30)

お茶はいかがですか。どうぞお立ち寄りください。

俳	句		P 2 ～ 3
短	歌		P 4 ～ 5
川	柳		P 6
華 道 ・ 茶 席			P 7
盤	景		P 8
美	術		P 9
会場レイアウト			P 10

俳句

雪山と競えん桜越後路は

永野 一郎

鬼灯を鳴らして祖母の得意顔

米山 とも枝

金魚鉢玄関飾る昭和かな

佐藤 幸子

居酒屋の喧騒楽し夏の宵

稲田 良作

手の痺れ老いを感じる蝉しぐれ

稲田 美保子

風に舞う柳の裏葉光る朝

榎本 綾子

鬼灯やふるさと遠し夏がゆく

岡澤 龍雄

母と行く鎮守の森や初詣

斎藤 由利子

バスの中飾り鬼灯のぞく籠

佐藤 悦子

雨あがり日差しと共に蝉の声

福島 美由紀

穏やかに今日も過ごしてビールつぐ

藤野 厚子

庭の角金魚と書きし木札あり

高橋 千賀子

パクパクと何を語らう金魚群れ

松林 純子

鬼灯や鳴らす笑顔の母恋し

丹羽 静代

金魚鉢部屋に小さき海を置く

小林 俊樹

墓の道陽差しを覆う百日紅

二見 しづ子

秋日和生きていること実感す

佐藤 和生

の 部 ◆

梟の啼いて闇夜を計りけり

高橋 由紀子

草に寝て時を忘れて鰯雲

富沢 尚子

故郷は降水帯や梅雨真中

船隈 文雄

こぼれ萩共に学びし友逝きぬ

松本 紀子

哀愁の向日葵畑旧きシネマ

丹羽 昌子

捨てし恋の残光強し白桔梗

桐山 佳代子

稲舟に目を細め見る農夫かな

河野 千恵子

しとしとと雨音続く秋の宵

小森 貞子

いつもより多めに歩く天高し

櫻井 よし子

小さき手をグウして走る運動会

佐藤 政志

存えて秋の茄子となりにけり

山田 米子

金木犀生き世生きよと香り立つ

藤田 達枝

不器用な吾に釣られし金魚無し

吉橋 靖子

息合わす金魚とポイトすくう手と

小関 幹子

金魚屋の水槽揺れて夏が来る

福永 泰子

緋目高や名前はなんと楊貴妃と

堤 周子

百合咲いて小さな庭の華となる

荒木 美智子

ゆらゆらと夢見心地の金魚かな

榎本 武明

梅雨寒やお店へ急ぐ単帯

鐘ヶ江 健児

枝先の揺れてふんわり合歓の花

川木 礼子

「コーヒー」の赤い旗立つ「椿竹林」卒寿のマスター仕事大好き
初めての歯がぬけたよと箱の中孫は誇らしげ何度もみせる

西村 幸子

紅花のトキワマンサク路地に咲く燃ゆる炎にたじろぐ吾は
ごめんなさいアルペンブルーの花に水一日忘れて弱りに気づき

丸山 恵司

しなやかに踊るおわらの風の盆笠かんぼせの顔のぞいてみたし
三味線と胡弓の音沁しじまむおわら節越中八尾の夜の静寂に

宮崎 浩子

この頃は眠れぬ夜に呼んでみる羊が何匹添い寝するやら
日記帳空欄の日々よみがえる文字に記するをためらった事

村上 倭子

星を好む母は幼きわれを連れプラネタリウムの魅力にひたる
星を介し亡き弟と束の間の母は会話を楽しむごとし

村田 泰代

階段を妻をいたわり上りつつ息もほどほど明日も元気で
あと五日で米寿になるわこの喜び波瀾万丈全部楽しい

秋山 与吏子

雲梯と金次郎像を並び見る この校庭から征きし子らあり
うなづいて祖父が眺めた繭の山 出来も相場もまあまあと

上原 厚美

軒下にすいすい入りし親つばめ巢には餌を待つひな鳥数羽
雨の京観光客も思案顔空を仰ぎてふと歌を詠む

大塚 栄

養分を送り終わつた葉痕はさるの顔して微笑んでゐる
カーテンの外が何やら白くつて象がいさうで雨だと気づく

大谷 悦子

秋晴れに思い出すのは山形路 家族五人の旅はたからもの
千葉本土寺にわのもみじ葉の紅は今でも胸に焼きつく

菊田 まさ子

コロコロと自分のシッポとたはむれる我家の家族となりし早春の朝
冬の夜はモフモフ丸を湯タンポのかわりとばかり懐の中

小林 公子

この湖^{うみ}のほとりで生れし野口英世博士 人類愛の育まれしや
祈りしや 菩薩のような山やまに子に会いたしと博士の母は

小林 敬枝

野良猫の住家見付けて気になりてついついその場に目をやる我なり
満月に母猫一番顔を出し五匹一列月夜のさん歩

佐藤 保子

挿し木したカランコエの根がのびて暑さの中を必死に生きて
リユースの洋服めあてにやってくる人が集まるエコライフプラザ

杉山 敦子

目をとじる広がる景色はセピア色明け方恒例脳内散歩
そんな事些細な事だと決めつけて頭かかえる誰かを笑うな！

田中 忠則

◆ 川 柳 の 部 ◆

アダージョで月下美人の薫りのむ	新井千恵子
モナリザを待たせ最後のピース置く	阿相 奏暇
亡き妻の面影偲ぶ娘のしぐさ	石毛 克政
はにかんでママの後ろにかくれんぼ	石毛 宗典
はしご酒仕事の糧と妻に言う	江川 静子
ケーキカット拡大鏡の子どもの目	大坂 泰世
数独がやつと解けたら昼ごはん	岡本 作良
裸婦像を見て見ぬ振りし通りすぎ	鎌田 祐子
泣いてる子あやさずスマホ見てる親	菅野 梶子
AIにちらつく黒い核の影	北島 宏幸
じゃあまたね君は一度も振り向かず	熊谷たかこ
競り人の声が市場の朝を呼ぶ	倉林おさむ
鬱憤が木霊で帰る爽快さ	栗林むつみ
新米が古米の値段下回り	桑山桑の実
修羅共に越えたネクタイ捨てられず	小池 主計
振り払う暗い世間にホームラン	鈴木ただし

おしゃべりは老化防止と妻の声	添田二三子
経済を語るな夫家計見よ	武井まちこ
女嫌いに三人の姉がいる	田中祥元
はや傘寿五臓六腑が愛おしい	栃原輝昭
彼女できスキップしてる初デート	中村文也
駅地下の迷路私は異邦人	西室町子
選ぶのは賞味期限と値引き巾	丹羽 勝
後輩の発想時に教えられ	林 昌代
気をつけるギックリ腰とゲリラ雨	馬場 憲治
化粧取り仮面はずして深呼吸	日笠よし子
猫という起床装置と住んでいる	松橋 帆波
チラシ見て今日の散歩のルート決め	山本 敏男
物忘れ分かってみればなんだこれ	吉川 岩魚
人生の最大のカケ結婚か	吉川 悠子
不器用な嘘の優しさ惚れ直し	吉川 範子

◆ 華 道 ◆

流派名

出品者名

池	坊	加藤木 満野
池	坊	嘉野 紅沙
古流 松 瀨 会	榎木 理興	
古流 清 和 会	河角 理里美	
柳 古 流	小林 一幸	
草 月 流	米山 照倫	
草 月 流	服部 香照	
草 月 流	木村 虹峰	
草 月 流	石川 翠峰	
草 月 流	石井 文峰	
草 月 流	津田 紅星	
草 月 流	久保 桜星	
草 月 流	宇佐見 虹則	
草 月 流	小池 松美	
花芸 安達 流	矢作 蘭瞳	
花芸 安達 流	小曾根 喜代瞳	
花芸 安達 流	高柳 春瞳	
花芸 安達 流	三浦 美瞳	
アレンジメント	あざみ 亜理	

茶 席 11月7日(土)～8日(日)

11月7日(土) 葛飾区華道茶道会 茶道部

11月8日(日) 表千家不白流 左近司柳緑

テクノプラザ かつしか 展示ホール

午前10時～午後4時(最終席入り 午後3時30分)

◆ 盤 景 の 部 ◆

氏 名 作 品 数

盤 景

池 田 絹 川 2 点
村 田 泰 代 1 点
梅 澤 恭 子 2 点
日下耕太郎 1 点
入 澤 良 子 1 点
千 依 1 点

氏 名 作 品 数

創作盆景

◆ 美術 の 部 ◆

作 品 名

作 者 名

絵画（水彩画、油絵、色鉛筆画）

真夏のサラブレッド	上田 雅一
叫 び	王 革 濱
江戸風 町並み	熊谷 紀子
レモンとミミちゃん	中瀬 敏子
草	原 匿名 希望

切 り 絵

彩	り	寺光 幸子
---	---	-------

刺 繍

モ	り	ス	山本 清江
---	---	---	-------

文 化 刺 繍

牡丹孔雀江	林 瑤 林
不動尊	成田 良子

ポ ジ ャ ギ

梅にめじろ	薄葉 博子
-------	-------

木 彫

ばらの写真額	中指 栄
蔦の絡み	長谷 晴子

そ の 他

帯と花と	勝呂 幸子
------	-------

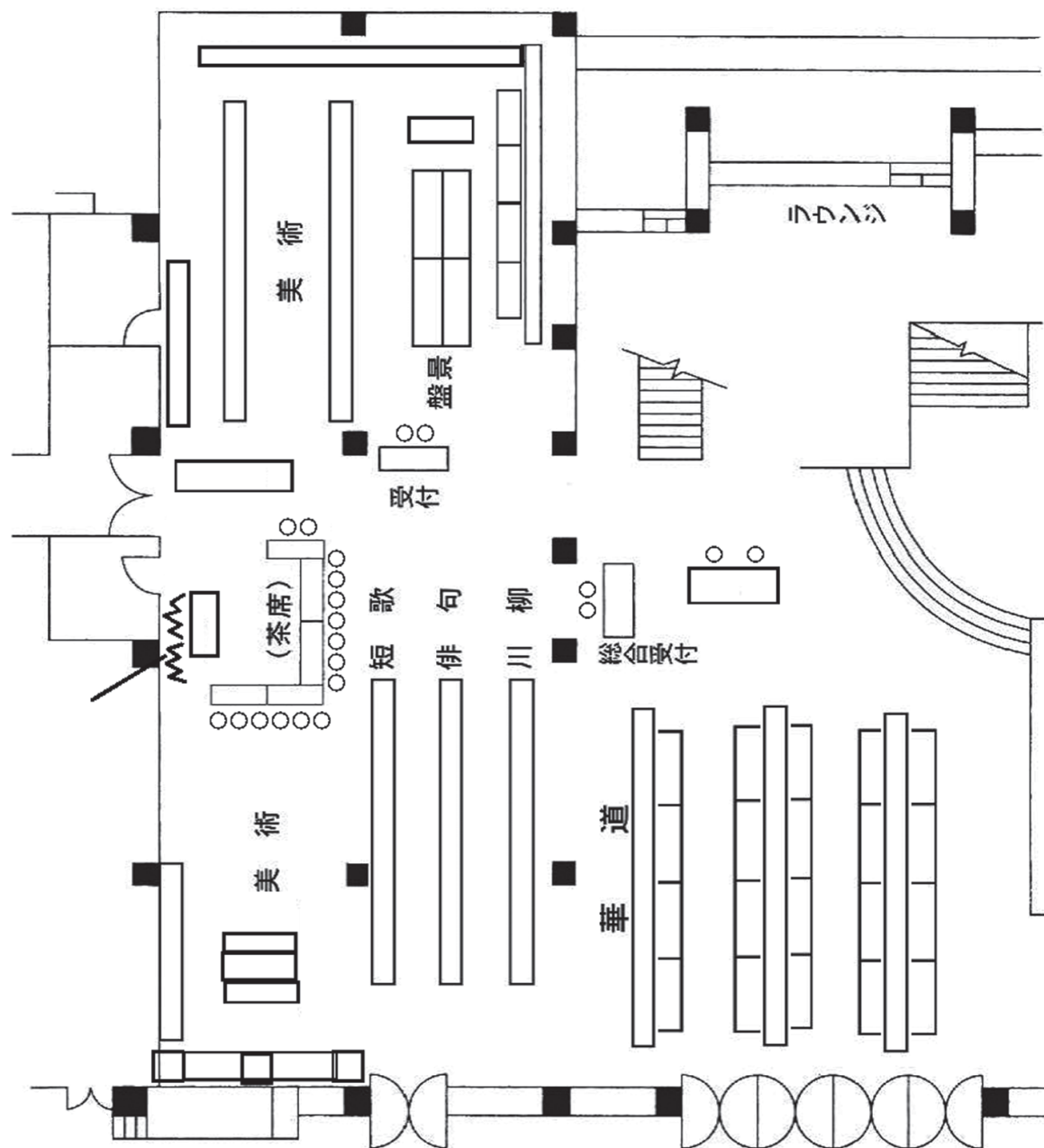
作 品 名

作 者 名

パッチワークキルト

魚のパレード	秋元 真由美
花のトリオ	安部 久恵
ダブルウェディングリング	市原 光子
花の風車	伊藤 真由美
ひ孫のためのベビーキルト	稲垣 百合子
縞の不思議	井上 忍
花ざかり	上村 信子
サンプラーキルトpartⅢ	薄井 美代子
たくさんの彩り	岡野 恵子
バ ッ ク	小澤 久美子
縞万華の迷宮	加藤 君代
クレイジーキルト	北堀 瞳
藍の曼荼羅	草野 節子
風 ^{じょうじょう} 嫋々たると…	黒沼 幸子
輝	小山 真理子
夢いっぱい	佐川 清子
フラワーガーデン	柴田 知子
四角形	杉江 美智子
薔薇 [♀] 薔薇	副島 安代
桜	高橋 知江子
スーちゃんの部屋	高橋 美紀江
ハワイの海の輪舞	舘坂 雪枝
絆（ダブルウェディング）	田村 妙子
華	中澤 治枝
六角形の縞遊び	樋口 友子
トートバッグ	前田 良子
キルトのイヤリング	吉永 安子
窓の光と花	匿名 希望

配置予定図 (テクノプラザかつしか 展示ホール)



※作品数等により
レイアウトを変更する
場合がありますので
ご了承下さい。